

ピコピコ♪!

昨年来、駅の業務用扉の錠の「未鎖錠」の事象が続いています。この問題は、扉を新設して以来、いっこうになくなっていません（昨年5月から6件の事象）。

日頃、会社が指導している内容は「セキュリティ意識」「いつもどうやってるのか」「しっかり確かめたのか」など社員の意識や行動について責任があるかのような内容です。

私たちは、ボタン式のボタンやタッチ式の画面も使えば減るはずで、機械も使えば消耗しますし、扉を通過する社員の数は相当の回数を数えるはずで、よって、会社に対して、扉の交換や修理などの抜本的な対策・改善をするように以下のように申し入れました（「申」第10号（2015年9月14日付））。

■以下は、昨年11月19日の業務委員会でのやり取りです。

【組合要求】 新大阪駅ホーム端の全業務用扉に自動ドアクローザーを設置すること。

【会社回答】 現行通りとする。

組合：ドアクローザーの導入はセキュリティ上でも必要である。

会社：基本的には開けたら閉めること。使用頻度が高い。壊れることもある。

組合：閉め忘れ防止だけでなく、ドアが勢いよく閉まってドアの故障を防ぐためにも必要である。

会社：勝手に閉まると手で締めることをやらなくなる。

組合：社員を疑うことが前提となってるからだ。

以上のように、会社からは抜本的な対策を取ることなく誠意ある回答はありませんでした。私たちは、改めて、自動ドアクローザーを設置することと、ドアの開いている時にピコピコ音などによって通過する関係者に警告音で注意喚起する具体的な対策を会社に申し入れます。

会社は何でもかんでも社員の責任にせず、具体的な対策を講じるべきです！